

特選作品に対する審査員講評

1 広報紙部門

○入善町 「広報入善」 令和6年12月号

(2年連続、通算23回目の特選受賞)



・表紙の写真は次ページに連動させ、未来を見つめた表情が「この子たちのためにも」と思わせる力作。特集ページはボリュームがたっぷりあるのに、工夫したレイアウトで読みやすく仕上がっている。情報量も過不足なく、読み手の目線で作り込んであり、全体として完成度が高い。

・特集「みんなで創る入善のみらい」をキーワードに、地域で、中学生の視点で、防災の観点からなど、様々な角度から取組みを紹介しており、読み応えある内容となっている。つづく見開きで二十歳の集いを紹介しており、ストップ人口減少に向けた取組みの着地となっているようで、練られたページ構成になっていると感じた。

・なんとなく配置されがちな写真にもひとつひとつキャプションがついており、内容を深く理

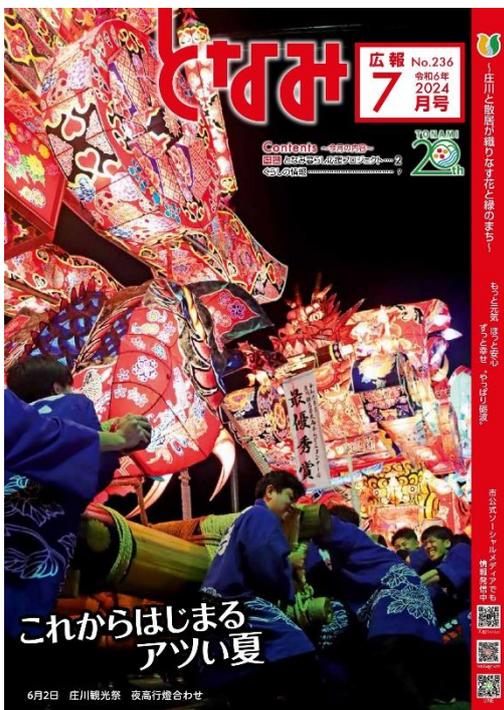
解するために大変効果的だと思う。全体的にすっきりとまとめられている紙面になっていると思う。



2 写真部門

○砺波市 「広報となみ」令和6年7月号

(3年ぶり、通算9回目の特選受賞)



・極彩色のあんどんをローアングルから切り取り迫力がある。曳き手の男性たちの表情も入っておりダイナミックな祭りのハイライトを伝えている。

・この写真は非常に大胆な構図の切り取りが見る人の眼を引き付ける。背景の黒に浮かび上がる行燈の明かりが継承される伝統への郷愁へといざなってくれる。

・最優秀賞という情報も組み込まれており秀逸な作品。参加者の表情もうまく収められており、華やかさと熱気が伝わる表紙。

3 映像部門

○砺波市 となみシティプロモーション映像「ときめきが咲き誇るまち」

(16年ぶり、通算5回目の特選受賞)



・あり物の映像で組み合わせず、オールロケにしたことでうまく刷り込まれ、すんなり見ることができる。全体的に更に見たい、もう一度見たいと思わせる作りになっている。

・映像がたいへんきれいであり、砺波市の魅力を5分という短い時間で最大限伝えている。



2歳の男の子を中心とした構成であるため、より温かい雰囲気、地域そのものが将来に向けて大切に受け継がれていくというイメージにつながっている。



・冒頭で観光資源を見せつつ中盤で暮らしの利便性も伝えている構成が、“訪れたい場所”から“住みたい場所”のイメージに自然につながり、秀逸。また、その構成が四季の時間軸に違和感なく差し込まれている点も素晴らしい。